

JLSR ニュースレター

認知症ケアから存在の祝福へ

八木澤良子

そもそも私が認知症ケアを考えていきたいと思ったのは、「認知症になったらおしまい、話ができない、わからない」といった世間の認識やイメージを壊したいと考えたからである。

自分がそろそろ還暦に近くなってきたせいか、高齢者との境界が随分と薄くなってきたように感じる。私はもともと看護師なので、病気の人や高齢者と関わるのが苦ではない。それどころか高齢者やその家族に学ぶべきことが多くなっているし、日々関わっていけば、一人一人のらしさが見えてきて愛おしくなってくる。年を取れば、若い頃のように何でもバリバリこなして万能感を持つようなことはなくなって、むしろ一つ一つ失って、諦めていくようなプロセスが、悲哀の時もあれば、妙に新鮮な自分が見えてくるときもある。更年期でも同じようなことがあったが、今まで握りしめていたり、しがみついていたものを改めて見てみたら、今となってはそれほど大事なものでないかと、そんな事も多い。むしろ余計なものを一つ一つ落として本当に大切なものがなになのかを振り返られる、そんなプロセスでもあるように感じるのである。

認知症ケアについても、認知症でもいいんじゃないか、認知症をなんとかしようとするより、今、日常生活で困っていること（衣食住など）を助け合って、今までと変わらず、お互いを認め合いながら安心して過ごせる環境を作ることの方が現実的ではないだろうか。特にグループホームは地域密着型で、馴染み暮らした場所で今までの生活を継続できるようにと考えられている施設である。1人では困難になってしまった生活を、地域のホームを拠点にして、支援を受けながら新たな生活に再構築していければと考える。

再構築するにあたって、やはり本人や家族から直接話を聞いていくことが一番大切な事と考えている。そこでいろいろなその人らしさが見えてくる。今まで培ってきたもの、大切なもの、楽しみとしていたもの、誇りとしているもの、いえいえ何なくてもいい、存在そのものこそを祝福しながら聞いていきたい。日常では流暢に会話ができない人でも、しばらく傍に座っていたり、職員同士が話をしていたりする時に、突然思い出したように話をする人もいる。こういうことを何度も体験すると、沈黙している間でさえも、ずっと思っていることやこだわりがあって、チャンスがあれば語りたいのではないかと思えるようになってきたのである。そしてそのチャンスの時を率先してつくらなければならないのが我々職員ではないか。日常に紛れてしまっている大切な思いを、私たち職員が少しずつ傾聴して、再構築の土台作りとして地道に求められるのだと思う。また、職員にとってもそれぞれの人の話を聞いている時、その人の話ではあるが自分もその話を一緒に体験できる（生きる）というおもしろさがあるのではないと思う。その時を何度も重ねながら、聞く側も語る側もお互いの人生がどのように再構築されるのか、

とても楽しい事であり、認知症であるとかないとかを超えて、お互いの生を祝福しあえる時になることを期待する。

(グループホーム「ここから尼崎小田」)

From 近江

サナエさんのオリジナル料理 “テール煮込み”

田中政明

1996 年、仕事でS町(これまでたびたび取りあげてきた屠場のある町)の隣保館に立ち寄った際、私はサナエさんと偶然出会った。彼女はその折に、母親や兄弟姉妹がこの町に暮らしていること、兄さんが肉をさばく職人をしていて珍しい食材が手にはいること、そして、スジ肉やナカノモンを用いたこの町特有の料理のことなどを、豊かな表情で話してくれた。私も、仕事や家族のこと、毎日している料理のことなど、いろいろ話したことを記憶している。サナエさんの話を夢中で聞いているうちに、「もっと聞きたい」という思いが溢れ、改めて聞き取りに応じてくださいよう依頼した。それ以後、合わせて4回の聞き取りが実現したのである。

サナエさんは現在 72 歳になる女性である。S町で生まれ育ち、しばらく県外で暮らすこともあったが、今もこの町で暮らしている。

2010 年8月、私はサナエさんの自宅をふらっと訪れた。玄関先で彼女は、「今、テール煮たんや、ちょっと食べるか?」と迎えてくれた。私は、「何か、いい話聞けそうやし、テープ回すで」と言って、レコーダーを取り出し、回しながら廊下から居間に入った。

「これ、(テールの関節の)二つ目ぐらいかな。ほんで、これは尻尾の方。味が全然と(良くない)思う。……一度水炊きして、それから、お醤油と砂糖と酒。水は入れてないの。佃煮にしてるん。……ニンニク、生姜入ってる。砂糖も醤油もお酒も調合しといて圧力鍋で……最初大きい火で5分ぐらいするでしょう。あと中火で20分ぐらいするの。やわい(柔らかくできあがっている)でしょう」

テールの甘辛煮(甘露煮)のようなものを御馳走になった。“テール煮込み”とでも命名しておこう。牛肉(スジ肉)のしぐれ煮のような味で、とてもおいしくいただき、またもや部落の食に魅せられたことを記憶している。これまで聞き取りの中で、テールについては、剥ぎ取った肉をすき焼きにする、あるいは、テールスープにするという二つの調理法を聞いたことがあるのだが、この時、初めてテールの煮込みに出会った。テールスープの肉のように、肉がはがれやすくなっている。

テールの一つ目の関節(私たちが購入しているテールは、二つ目からの場合がほとんどである)の肉は、すき焼き風に煮るとおいしいということは部落の中ではよく知られた事実である。一つ目の関節は直径 20 cm ほどもある大きな塊だから、肉が剥ぎやすい。しかし、二つ目から先の方に行くにつれ細くなり、金平糖のように骨が張り出しているため、ナイフで肉を剥ぐことは難しくなる。しかし、じっくり煮ることで隅々まで食することができる。手に入るものをできるだけ無駄にせずおいしく食べようとする知恵が表れていた。

これまで私たちに語られていなかったことが、他にもいろいろありそうな気がした。フィールドワークでその人のライフヒストリーの真実に迫るには、改まった聞き取りの場だけではわからないことがある。自然な触れ合いの中でこそ、本音が出てくる。私は、フィールドワークを研究の基にするにあたって、できる限りこのような“その人との付き合い”を大切にしていける必要があると思っている。

彼女は、この町の人々がどのような料理をどんな思いをこめて作り食してきたか、また、それがどんなふうに関承されてきたかなど、様々なことを語ってくれた。私はこれまで 20 年以上にわたって“被差別部落の食文化”を研究テーマにしたのだが、そのきっかけは、サナエさんとの出会いにあった。このあと数回にわたって、サナエさんの聞き取りデータをもとに部落の生活文化について考察を加えていきたい。

(本研究所研究員)

ライフストーリー調査研究
講習会(4)
2018年度第2回
を開催します。

11月11日(日)①
11月18日(日)②

テーマ

**インタビュー実践
の課題と調査倫理**

・開催日時:①2018年11月11日(日)10:30~16:40
:②2018年11月18日(日)10:30~16:40

※ 第2回講習会は、11月11日と11月18日の両日に開
講しますが、内容は同じです。

・開催場所:(社)日本ライフストーリー研究所
・講師:桜井 厚(本研究所代表理事)
・定員:10名(申込みは締め切りました)

本年度第2回の講習会を開講します。第1回の講
習会では、ライフストーリーの基本的な考え方を討議
しましたが、本講習会では、その考え方を基礎にして、
語り手と出会い、インタビューにおける語り手との相互
行為の諸相やトランスクリプトの作成における注意点や
課題を洗い出し、そのうえで語り手との関係に関わる
調査倫理について討議します。

講習会プログラム予定

*資料の配付:開講日 1週間前にメールで参考資料
を配付します。

I. ライフストーリー・インタビューの考え方(10:30~
12:10):聞き方、語り手にとっての調査者、調査者の
自己概念、当事者研究とは何か、語り手/聞き手関係、
語りのなかのリアリティとは何か、語りの構造。

*昼食(12:10~13:00):スタッフの都合によりですが、
ランチを提供する予定です。ご自身でご用意いただく
場合は前もってご連絡します。

II. インタビュー・データの解説と利用(13:00
~14:40):参加者の関心紹介と質疑、具体的デ
ータから何を読み取るか、TSの利用法、データ数、
データのチェックと匿名性。

III. 語り手との関係における調査倫理(15:00~
16:40):各学会の調査倫理の紹介、倫理的課題
の整理と考え方、関係論文の紹介、調査倫理委員
会への提出書類の書き方など。

*送迎:JR 中央線小淵沢駅——本研究所間を送迎します。迎
えは、新宿から着く特急の時間に合わせ、10時10分に小淵
沢駅を出発します。早めに到着した場合も、その時間までお
待ちください。また、帰りは、個々の希望に合わせて送ります。
*東京や名古屋から日帰りは可能です。

**ライフストーリー研究会
第4回夏期研究集会の報告**

第4回の夏期研究集会が2018年8月26日(日)
に、ハヶ岳山麓の(社)日本ライフストーリー研究所で
開催されました。10時30分から第1報告、昼休み
をはさんで、13時30分から第2報告、第3報告が
行われ、予定をオーバーして17時50分まで活発
な討議が行われました。参加人数は、例年よりやや
少なめの13名でした。各報告のタイトルを以下に掲
載します。質疑応答のまとめなどは、すでにメールに
て配信しました。また、報告会終了後、バーベキュー
と飲み物が振る舞われて(会員は無料)楽しい歓談
の機会をもちました。

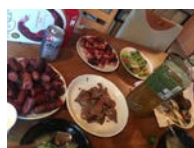
第1報告: SMA(脊髄性筋萎縮症)当事者の「病いの語り」—病名告知と重度化を中心として..... 向山夏奈

第2報告: ホームレス経験者にとっての『住まい』..... 杉野衣代

第3報告: 在日コリアン高齢者介護施設における相互扶助についての考察..... 伊藤尚子



報告会



懇親会

受け入れ論文、図書、報告書

2018年8月～10月

下線の著者は本研究所会員

●鳥越皓之・足立重和・金菱清編『生活環境主義のコミュニティ分析——環境社会学のアプローチ』ミネルヴァ書房、2018年10月

●好井裕明・小川博司・檉田美雄・栗田宣義・三浦耕吉郎『新社会学研究』第3号、2018年9月

●大出春江『産婆と産院の日本近代』青弓社、2018年9月

●奥村隆『反転と残余』弘文堂、2018年9月

●上野千鶴子『情報の生産者になる』ちくま新書、2018年9月

●石川良子ゼミ実習調査報告書『瓦と生きる町』2018年3月

●日本オーラル・ヒストリー学会『日本オーラル・ヒストリー研究』第14号、2018年9月

●神戸大学社会学研究会『社会学雑誌』第34号、2018年7月

●小野崎敏編『小野崎一徳写真帖 足尾銅山』新樹社、2006年12月

●足尾を語る会『「足尾を語る会」会報別冊 2006年版』2006年5月

●「明るい町」編集部『町民がつづる足尾の百年 第2部——銅山に生きた人々の歴史』光陽出版社、2000年5月

新入会員(2018年8月以降、順不同)

丸田健太郎(広島大学大学院生)

岩瀬貴美子(甲南女子大学)

池内文枝(中央大学大学院生)

佐々木貴代(筑波大学大学院生)

中原逸郎

遠藤順子(湘南医療大学)

※中野卓調査資料のうち、能登調査の資料整理を進めています。まもなく少しずつ資料リストを開示します。

※『語りの地平』3号の編集が進んでいます。11月末刊行予定です。

※経費節減と郵送作業軽減のため、ニュースレターのメール配信を行っています。受取りにご協力いただける方はご一報ください。

※研究相談を受け付けます。希望者はお問い合わせください。

(社)日本ライフストーリー研究所

〒408-0032 山梨県北杜市長坂町大井ヶ森 1176-489

E-mail: info@lifestory.or.jp HP: <http://lifestory.or.jp>